相撲大会
（アーバンみらい東大宮プライムキッズガーデン）

みらい

2011.1
新春号 ④

一般社団法人 さいたま市私立保育園協会　広報誌

Contents

年頭のあいさつ…P2　「こども・子育て新システム」を考える集い…P3
さいたま子育てすくすくフェスタ2010…P4～5　部会活動報告…P6
わくわくが いっぱい!・新会員紹介・編集後記…P7　保育園紹介…P8

年頭にあたり

新しい制度改革は子どもと親を幸せにするのだろうか？

一般社団法人　さいたま市私立保育園協会
会長　剣持　浩

不安といらだちの中で

おめでとうございます。先行きが見えない不安と混迷の中で年が明けました。民主党の根拠のない選挙公約の崩壊、財源の裏付けのない子ども手当の迷走ぶり、衆参のねじれ国会による政治の混迷が市民生活にますますの混乱と不安を生み出しています。昨年十一月の埼玉県内企業倒産数は前年同月比で二七%増と発表されました。働かないとローンが返せない、ボーナスがカット、保育園に子どもを預けないとやっていけない、などと子育て中の親は大変な状況におかれています。

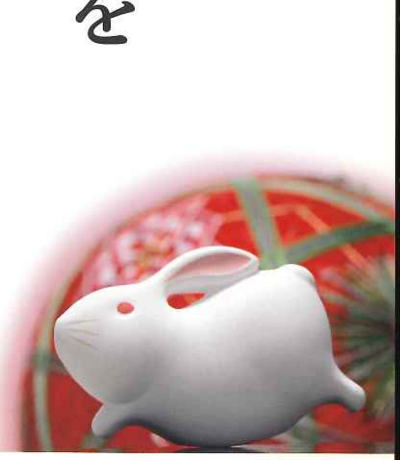
愛に飢える子どもたち

買い物をしているときでした。スーパーのレジで子どもが母親に一生懸命話しかけています。親は目を合わせず、素知らぬ顔。それでも、子どもは何か訴えているのですが、母親はうさんくさそうに矢を射るような目つきで「ウルサイ」と怒鳴り、子どもは親の態度に押し殺されて小さくなってしまいました。傍若無人に走り回る子どもたちがいても、親はおしゃべりに夢中で、子どもはほったらかしです。喫茶店を経営している方が、「最近の客は、周りへの気遣いが全く見られず、言いたい放題、周辺への気配りも、心配りも無くなってしまった、こういう風潮が気になります」と嘆いていました。保育園に来ている子どもたちは、保育士に甘えたがり、年長の子どもたちでもひざに座ったり覆いかぶさり、抱きついてきて離れたがりません。親に経済的精神的ゆとりの無いことが子どもの育ちに影響を与えていることは否めません。

新システムは？

政府が提案している「子ども・子育て新システム（案）」（以下「システム」）は、「目的」の中で〝すべての子どもへの良質な生育環境を保障し、子どもを大切にする社会〟と高らかに謳い、幼保一体化、財源の一元化、多様なサービスの提供を述べています。しかし、提案はダッチロールのように揺れ動き、姿を変えて現れます。でも、揺るがないのは「直接契約、直接補助」「多様な事業体の参入」「ニーズにあった多様なサービス」などです。

内容を吟味して読み取ると次のようなシミュレーションが描けます。



まず、保護者は自分の子どもがどれだけ保育が必要か（保育と保育量）を市町村で認定してもらいます。それを受けて、保護者が自分で「こども園」を探すことになります。「多様なニーズに合わせて」施設の中では「4時間だけの保育を受ける子ども」「8時間、11時間受ける子ども」と、保育量が混在することになります。保育料金はニーズに合わせて多様化するでしょう。英語やバレー、習字やスケートなどのオプションが用意され、別料金が発生します。土曜日の行事は土曜利用していない子どもはどうなるのでしょう。参加すると補助金はつかないので別料金保育料は高額になるでしょう。通常保育も30分、1時間とオーバーすれば基本的には応益負担ですから延長保育料がかかるでしょう。最初は「激変緩和」で特別の補助金があるかもしれません。でもその補助金はいつか消えてしまうでしょう。園長は膨大な事務作業に忙殺され、時には保育料未納者へ取り立てに行くことになるかもしれません。前述した内容はあくまで私の憶測です。しかし、制度問題に詳しい研究者が、「もしこの制度が動き出したら保護者の負担は保育所探しからはじまり、応益負担は家計を圧迫することになり、保育格差が広がることは確実」と指摘する方もいます。保育料は直接園に払うことになりますが、滞ると「もっと保育料の安いところへ」と、退園を促されることも起こるでしょう。子ども達の生活が制度の改変によって翻弄されるかもしれません。

日本の子育て、豊かに育つための理念を！

経済の不況と日本の混迷した政治状況は子どもたちの育ちに少なからず影響を与えています。「新システム」は「良質な生育環境を」と謳っても、その中身は不明です。就学前の乳幼児期の養護と保育、その後につながる児童・青年期の教育を見通した人づくりのビジョン・理念が欠落しています。理念なき制度改革は決して子どものためにはなりません。保護者と保育現場に多大な混乱をもたらすのではないかと危惧します。

就学前の養護・保育にかかわるすべて関係者のみなさんと共に、現場から子どもの立場に立って優れた制度を創っていかなければなりません。

「こども・子育て新システム」を考える集い

11月18日、午後2時より国際学院埼玉短期大学講堂において、表記の集いが、当協会とさいたま市私立幼稚園協会共催で行われました。

はじめに、厚生労働省・児童家庭局保育課森田博通氏が「保育をめぐる国の動向と課題」について説明されました。冒頭、意義深い場に参加することが出来、感謝したい。8月末から各地域で20数回説明会を開かせてもらい意見交換をしてきた。今日はじめて、文部科学省の幼稚園と厚生労働省の保育所という両サイド主催の会に出席させてもらった。

平成22年1月、子ども・子育て新システム検討会議において、5年間の数値目標を定め進めている。6月に、基本制度要綱を決定した。全ての基本は、子どもの保育の量と質を確保する事にある。都市部の待機児童対策ならば、制度を変えなくてもいいと言われるが、保育を受けられない子どもがいるので新しい制度をつくる。現代は、共働き家庭が増え、統計では、共働き家庭が専業主婦を上回ってきている。財源は、国のレベルで1本化し、市町村に交付し、給付は2本立てとする。子ども園のイメージは、新たな指針に基づき、幼児教育と保育の特性を生かし機能を一本化する。子どもの育つ場所として、0歳～2歳。小学校教育を見据えて、3歳～5歳の子ども園とする。利用形態は、①利用の改善②市町村の関与のもと利用者と事業者の利用契約、市町村は認定。ひとり親、虐待児、は優先していく。障害をもった子どもが利用できなくならないようにしたい。11月16日のワーキングチームで子ども園(仮称)の5つの案も考えられる。財政支援が弱いとよく指摘されるが、つけていきたい。指定制度の導入は、必要もないのに園が増えてしまわないかといわれるが、需給、調整の仕組みを検討している。質の向上、職員配置、など今まで要望があったが、財源がなく実現できなかった。いい機会なので、財政を確保する立場で頑張っていきたい。と説明されました。

保育園を考える親の会代表　普光院亜紀氏

子ども・子育て新システム検討会議作業グループの幼保一体化ワーキングチームのメンバーになったからには、しっかり主張しなければならないとお話された。

就学前教育保育に求められる事の1つに『体を十分動かし育つ』とあるが、ビルの中に保育所が激増していることに親は不安を感じている。「所得格差などによる排除のない就学前教育保育」を掲げているが、公定保育料は、認定された保育時間以外は全て付加的料金となるので、現制度がなくなると、保育料と受ける保育に格差が出る。新保育制度案は、多様なニーズに応えるとしているが、その中身が問題。論点として、現金給付と現物給付の配分は地方裁量でいいのか、最低基準は保障されるのか。地域格差が広がるのではないか。新制度は、一体化を中心に議論されていて、25年の実施を目指している。給食の問題では、自園調理の重要性を主張したが、外部搬入でもいいとなってしまった。施策を左右する方々に、当事者、現場、子どもを代弁する立場の者が、施策に参画する土壌がないと述べられました。

福島大学教授　大宮勇雄氏

この問の議論に思う事は、反対がでると、、「あれがだめならこれ」と色々な案を出してくる。しかし、変わらない一点は、介護保険制度をモデルにしているということだ。10年後と言うがいろ法案が決まれば、それで動いていく。現行制度の基本原則である市町村の実施責任及び現物支給はなくなり、保育所を作らねばならない法的根拠も、補助金をださなければならない根拠もなくなってしまう。現行制度は、公的責任による最低水準の確保、財政の保障、誰もが利用しやすい保育料、福祉としての、弱者の幸せが優先的にされる福祉制度として大きな役割を担っている。新システムでは、現在の提案では応諾義務を残すと言っているが、法律的に無理と言われている。「世界に誇る幼児教育をすべての子に」がうたい文句だが、利用時間に応じて利用料負担が原則となるので、家庭の経済状況は後回しで、利用時間により保育料を払う。幼稚園の子も、保育園の子も一緒(公平)の考えなので、親負担は全員、幼稚園の倍以上が当然となる。公立幼稚園の親負担は6千円だが、私立は2万円。公平にすると公立の幼稚園の親負担も、大幅値上げとなる。さらに、保育料は、公定価格に上乗せが自由となるので、まさに、自由価格、自由競争となり、保育は営利事業となっていく。

閉会にあたり、剣持会長より、1月中旬にも、県内保育4団体で「新保育システム」反対の集まりを持ちます。育ちに関る制度問題は、政党、業界の利益誘導でやってはいけない。超党派の立場で運動を進めていくことが大切。今回の集いを幼稚園協会と一緒に出来てよかったと結ばれました。参加者は、公私立保育園、私立幼稚園、市外保育園、他団体、総数150を超える集いとなりました。

大成功!

祝 さいたま子育てすくすくフェスタ2010

独立行政法人福祉医療機構　社会福祉振興助成事業

前日の午前中に降った豪雨は嘘のように、午後からは晴れ、準備も順調に進み、当日は日頃の行いの良さを証明したかのように気持ちの良い日になりました。会場の大宮ソニックシティには朝から沢山の親子連れの姿が・・・・・

独立行政法人福祉医療機構の社会福祉振興助成事業により当協会が取り組んだ「親支援父親の育児参加を促す子育て支援事業」。その一環として「さいたま子育てすくすくフェスタ2010」がついに開催されました。準備期間に半年を要し、試行錯誤で取り組んだ初めてのイベントだけに、大勢の参加者を目のあたりにし、スタッフの誰もが喜びを隠せないスタートでした。

食育部・食育コーナー

食育　受付を済ませると右側は食育ブース、担当の栄養士や調理師、保育士たちはお揃いの真っ赤なちごご柄のエプロンでお出迎え、お客様には、クイズや食育ビンゴに挑戦したり、「築地王選手権準優勝」鶴岡　佳則氏のステージに参加したりして楽しんでいただきました。後ほどインターネットで鶴岡さんの事を調べたらびっくり・・・農林水産省のお役人で「食育」についてはプロ中のプロ、お話をお聞きできた方々は幸運でしたね。

伝承　伝承遊びコーナーでは、昔懐かしい、こまや、お手玉などをみんなで体験、おじいちゃんやおばあちゃん達は、お孫さんに昔とった杵柄を披露でき得意顔でした。反対にふれあい遊びコーナーはゲーム遊びやリズム遊びにお父さんが引っ張り出され物怖じしてしまい当惑顔・・・舞台に立つお父さんの晴れ姿は文字通り「イクメン」にぴったり・・・と思うのですが、お母さんの評価はちょっと厳しいようです。後で、「もう少し上手に照れないで出来るはず」と檄が飛んでいました。何でも初心者はそんなもの、慣れれば段々板についてきます。物怖じせずに何にでも挑戦してください。が保育士たちの助言です。

調査部・伝承遊びコーナー

製作　製作コーナーは「クリスマスリースつくり」「クリスマス輪投げを楽しもう」の企画があり、落ち着いて楽しく参加している子供達の姿がありました。相手をするのがプロの保育士とあって保護者の方もリラックスし、安心してお子さんの様子を見守っていました。

予算対策部・リースづくりコーナー .

広報部・乳児コーナー

乳児　乳児コーナーには会場が狭く感じられるほどたくさんの親子がいつものんびり遊んでいました。中には「うちの子、あまり動かないんです」や「落ち着きがなくて心配です。」など側にいる保育士に相談をする方もありました。お子さんを背中におんぶをしていらした方は、お子さんを降ろしてホッと一息つき、「こんなに一人で遊んでいてくれたら近くのそごうまでお買い物にいけるわね」などとお話されていました。お母さんお一人でお子さんをお連れになった方は、「お父さんも連れて来たかったね」とお子さんに話しかけられていました。

イクメン　イクメンクイズコーナーでは、母親が答えても難しい問題に真剣に答えてる父親の姿が見られました。傍らの子どもたちが「がんばれ！」と応援するなんとも微笑ましい親子の姿も見られました。残念ながら点数がいかなかったお父さんが一言「もっとがんばらなくちゃね」と。その取り組む姿勢や気持ちは既に「イクメン」そのものでした。

紹介　保育園紹介ブースには、さいたま市内の私立保育園が区ごとに整理され、理念や保育方針を判りやすく掲示されていました。でも、一番人気は子ども達の笑顔、どの子の様子も本当に幸福そうで、見る人たちを幸せな気持ちにしてくれます。

研修・研究部・ふれあいあそびコーナー

段取り八分といいますが、実行委員の先生方、本当にお疲れ様でした。保育業務の他にこのようなイベントの準備をするのはとても大変だったと思います。そんな中で、大事業を立派に成功させられる底力の強さと、アイディアの豊富さ、アンテナの高さ、チームワークの良さに感心させられた一日でした。事前準備から当日ご協力いただいた各スタッフ園の先生方もお疲れ様でした。また、前日準備・当日とボランティアで参加された学生さん達も、保育の楽しさを体験できたのではないでしょうか

最後にご後援いただきました埼玉県、さいたま市、(株)埼玉新聞社、(株)テレビ埼玉、協賛いただきました(株)ボーネルンド、(株)埼玉ひかりのくに、(株)サンワールド、カゴメ(株)、(株)フレーベル、(株)埼玉ワンダー社、(株)ぱど、(株)ホクソンベビー様に紙面をもってお礼申し上げます。

部会活動報告

平成22年度　予算対策部会　活動報告
部長　中嶋 一雄

6月8日(火)	第１回予算対策部会 ①平成23年度予算要望アンケートについて ②認可保育園をめぐる諸問題について
7月5日(月)	第２回予算対策部会
8月6日(金)	三役＋予算対策部会（第３回） ①平成23年度予算要望項目についての整理
8月30日(月)	市長へ平成23年度予算要望書提出
9月4日(土) ～5日(日)	私立保育園協会による研修会に参加 ①保育制度問題　②法人会計等々についての研修
9月16日(木)	第４回予算対策部会 ①市議会への陳情のための打合せ
9月24日(金)	「子ども子育て新システムを考える集い」に参加
10月13日(水)	第５回予算対策部会 ①市議会への陳情の要望項目に添付する資料について
12月4日(土)	親支援フェスティバル2010において製作コーナーとゲームコーナーを担当、製作コーナーではクリスマスリース作りを、ゲームコーナーでは輪投げを親子で楽しんで頂きました。

平成22年度　調査部会　活動報告
部長　島村 和宏

今年度の活動は以下の通りです。（実施中・予定含む）

1 親支援・父親の育児参加を促す子育て支援事業アンケート

私立・公立保育園在園児の父親対象のアンケートを実施中です。12月中に集計、1月に集計結果をもとに考察作業、年度内に冊子の作成予定です。

2 幼児教育調査委員会への出席・アンケート作成

私立保育園、公立保育園、幼稚園、小学校関係者による委員会です。今年度は「子どもの食生活と親の関わり方」をテーマに、アンケート項目について検討中です。今年度中に各区1園以上の協力を頂き、アンケートの配布、集計作業を行います。集計結果をもとに次年度、考察、冊子作成へ進みます。

3 市内園対象のアンケート（予定）

昨年度の要望をもとに（1）公開保育について（保育参観・保育参加）（2）保護者会・懇談会について（3）職員研修についてのアンケートを実施します。1月の定例会で配布予定です。ご協力よろしくお願い致します。

4 次年度活動アンケート

2月中に次年度活動アンケートを実施します。

5 さいたま子育てすくすくフェスタ2010

当日は「総合受付」「イクメンクイズ」を担当しました。部員の皆様お疲れ様でした。

今年度はアンケート作業が大部分を占めましたが次年度以降は部員一人一人がより主体的に動けるような活動を検討したいと考えています。調査部の活動は地道な作業の積み重ねです。「小さな事からコツコツと」市内会員同士での情報の共有・その積み重ねを運営対策に繋げていければと考えています。

今後も会員の皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い致します。

平成22年度　研究・研修部会　活動報告
部長　丸山 和彦

平成22年度、研究・研修部会では事業計画に基づき、下記の様な研修を行ってきました。

【Ⅰ】講師を呼んだ園長・理事長・保育士向け研修会
【Ⅱ】担当者研修会（保育士・主任・看護師・地域子育て支援担当者等）
【Ⅲ】さいたま市内 研修・見学会
【Ⅳ】第3回さいたま市保育研究大会の手伝い
【Ⅴ】その他の研究・研修活動

昨年は新会計制度や新システムの話題が急速に進み始め、あまりに拙速な議論に心を痛めた方達も多かったのではないでしょうか。ともすれば自らの足元を見失いそうになるほど、時代の流れがますます加速している昨今ですが、だからこそ地に足を付けた研究・研修活動に裏打ちされた保育実践を蓄積していく事が重要かと考えます。そこで当部会では本年も多くの皆さんと研鑽を深める場を提供していきたいと考えておりますので是非、積極的に研修活動にご参加頂けますよう、お願い申し上げます。

平成22年度　食育部会　活動報告
部長　和田 明子

食育部では、勉強・意見交換会や調理講習会を開き、栄養士、調理師等の知識を高め、園の食事や食育を工夫しています。

6月24日に『食事摂取基準（2010年版）』の勉強会・意見交換会を行い、保育園の給食について考えました。食事摂取基準(2010年版）では、実際の園児の年齢、性別などを考慮し、電卓を使って各園の栄養量を算出しました。

数種類のクッキー（普通のクッキー、卵除去のクッキー、米粉のクッキー）を参加者に配り、試食しました。アレルギーのあるお子様は食事に制限がでてしまいますが、工夫をし、出来るだけ除去がないものと同じようなものを作り、提供できるとよいと思います。

9月9日『アレルギー除去食・盛り付けのひと工夫』の調理講習会を実施。卵、小麦、乳などの食物アレルギーに対応した献立「フォーのトマトパスタ」「米粉のお好み焼き」「トマトゼリー」の調理実習を行いました。アレルギーの原因となる食品を除去しているにも関わらず、見た目にも楽しめ、美味しい料理ができました。お子様にも食べやすいものでした。

12月4日に行われた『すくすくフェスタ2010』では、食育ブースを設け参加しました。食育ブースでは、アレルギーや朝食の展示コーナー、野菜や果物のぬり絵コーナー、エプロンシアターや栄養、食べ物の話のステージコーナーを設け、お子様を出迎えました。

平成22年度　広報部会　活動報告
部長　和田 喜美

会員相互の交流を図り、保育界の情報、子育て支援に関する情報、研修会の報告と園紹介の特集など会員の皆様に向けた広報誌を発行しました。

【活　　動】・年２回の広報誌を発行
【紙面の内容】・保育界の情報　・子育て情報　・対談記事
・各部会の活動報告　・園紹介の特集など

わくわくが いっぱい！

与野本町駅前保育所

おいしかったね ～ 収穫祭 ～

3、4、5歳児は、じゃがいも、大根、みんなで掘ってきたさつまいもを切って、2歳児は白菜とこんにゃくを手でちぎって、園庭の大きなお鍋のなかへ。具だくさんのいも煮汁とおにぎりをほおばるとおなかいっぱい、笑顔いっぱい。

かわいデイナースリー保育園

初詣

毎年、3歳児以上の園児を近くの鎮守様に行き、初詣をしております。

ひなどり保育園

どんぐり山でのあそび

「知る」ことは「感じる」ことの
半分も重要ではない
レイチェル・カーソン著
「センス・オブ・ワンダー」より

松木保育園
こびとの森保育園
南浦和たいよう保育園

他園との交流

松木保育園・こびとの森保育園・南浦和たいよう保育園の3園が一同に会した初めてのサッカー大会です。

わらしべ保育園

恒例のもちつき会

「埼玉スタチャレンジカップ」緑区松芝公園にて(H22.12.1)

編集後記

新年明けましておめでとうございます。平成23年のお正月はどのように過ごされたでしょうか。

子どもたちは、「おめでとう」とあいさつをしながら、元気よく登園してきました。自分の願いを凧に乗せて天に届けるという「凧上げ」、一年の吉凶を占う「こま回し」、インドにおこった「すごろく」、生活に必要な知恵などを覚える「カルタ」など、一月は伝統的なお正月遊びをたくさん取り入れて楽しみたいですね。

今年の干支はウサギ、長いよい耳でたくさんの情報を収集し、広報部員一同力を合わせ元気に跳ねまわって活動しますので、どうぞよろしくお願いいたします。

広報部　和田喜美

新会員紹介

H22年開園

社会福祉法人 正友会　くすのき保育園

園長 … 柿澤　和江　　所在地 … 〒331-0823 北区日進町3-543-3

・表紙の写真・ ―― 相撲大会

昨年、お正月遊びで相撲をやり、以来、園庭遊びでも相撲をとる姿をよく見かけるようになった。今年はクラスごとにトーナメントを行いました。

先生の手作りのまわしを締めて、四股を踏む。「まわしを捕る」「つっぱり」「張り手」技の指導に先生も熱が入る。力一杯ぶつかって、負けて涙、勝って笑顔。心身共に強くなって、また、来年、頑張ろう。

アーバンみらい東大宮
プライムキッズガーデン保育所

みらい　1月号
編集・発行　一般社団法人さいたま市私立保育園協会
さいたま市桜区西堀5-5-3　わらしべ保育園内
☎048-862-3123　FAX048-862-3975
平成二十三年一月六日
印刷　関東図書株式会社

保・育・園・紹・介

ひまわり乳児保育園

園長　丸山　郁代

当園は、さいたま市浦和区の北方、京浜東北線の与野駅、北浦和駅、新都心駅から徒歩で12、3分の位置に設置されています。設立が昭和50年で35年目となりました。閑静な住宅地でしたが新都心が開発され気が付いて見れば回りはマンションだらけとなりました。設立当初の労基法の産後42日の育児休暇に合せ生後42日目の赤ちゃんより預かる施設としては埼玉県では皆無に近くオイルショック後のベビーブームはたちまち定員はうまり活気に満ち溢れ、保護者もお蔭様、有り難うの中に感謝の気持を持っている方達が多く現在よりハードの面では決して恵まれた環境ではないのにもかかわらず暖かみのある良き時代でした。当園より開設が2年先のエンゼル保育園の故立石先生、2年後のこぐま保育園の黛先生、ひなどり、瀬ヶ崎、わらしべ聖徳保育園の各園長先生方と本格的に県や市に働らきかけ、園児と職員の処遇の公私格差の是正をお願いし、職員処遇改善費の補助が頂けるようになり此の暮の下期手当に加算する事が出来非常に助かっています。扨当園の保育目標は「体はつよく、頭もつよく、心はやさしい」即ち、知・情・体の三位一体のバランスのとれた全人教育を行っています。「三児の魂百まで」と云われてるように人間形成の一番大事な乳幼児期に集団を通して多くの体験や遊びの中で自制心、協力心思いやりの心を高め個々の主体性を伸ばしてあげられるよりよい環境を毎日提供しています。3才になると卒園しなければなりませんが殆んどの方が姉妹園のDoDo保育園を希望します。保護者の方々より知性が育つと心も体も同時に豊かに成長すると評価されています。幼保一体化の波にうまくのれるよう益々職員と共に質を高めてまいります。

エンゼル乳幼児園

園長　立石　勇

昭和51年、エンゼル保育園の姉妹園として、先代の立石　博子理事長により、緑区中尾にエンゼル乳幼児園を開設致しました。キリスト教を基本理念とし、「知・情・体」三位一体の調和の取れた保育を取り入れ、朝は全園児、マット運動や跳び箱、鉄棒等を行う体育ローテーションで体をたくさん動かし、礼拝やフラッシュカードを使用した日課活動では、落ち着いて集中する時間を設ける等、メリハリのある保育を展開しております。

姉妹園の桜美林幼稚園と同じように、品良く、良い教育を、とイギリス人の先生から学ぶ英語や、絵画、音楽、書道等、専門の先生から学ぶ専科活動も積極的に取り入れ、子ども達はたくさんの刺激を受け、吸収し、楽しく遊んでおります。保育士や友達から受ける人的環境や、保育室や豊かな自然から受ける物的環境を重視すると共に、集団生活の中で、社会性を身に付け、自主性を育てる保育を心掛けております。